

ケアマネジャーのお仕事サポート

テーマ

「適切なケアマネジメント手法」実践するために 一部改正された課題分析標準項目(23項目)との関連を考える。⑦

アセスメントから課題分析する課題分析標準項目(23項目)は、必須ですよ。

3月号から標題にある、一部改正された課題分析標準項目(令和5年10月16日通知された介護保険最新情報 Vol.1178とVol.1179)と、適切なケアマネジメント手法基本ケア項目との関連を、一緒に考えていきましょう。今回は7回目です。

課題分析(アセスメント)に関する項目は、**No.10**から**23**です。

今回は**No.16**標準項目名「**排泄の状況**」と、適切なケアマネジメント手法基本ケア項目との関連を、一緒に考えます。



No.16 標準項目名

「排泄の状況」



No.16の「適ケア」基本ケア関連項目は
7、8、20、21、22、25、29、32、33、34です。

項目の主な内容(例)

排泄の場所・方法、尿・便意の有無、失禁の状況等、後始末の状況等、排泄リズム(日中・夜間の頻度、タイミング等)、排泄内容(便秘や下痢の有無等)に関する項目

想定される支援内容

| | | | |
|----|--------------------------|----|-----------------------------|
| 7 | 食事及び栄養の状態の確認 | 25 | 体調把握と変化を伝えることの支援 |
| 8 | 水分摂取状況の把握の支援 | 29 | 一週間の生活リズムにそった生活・活動を支えることの支援 |
| 20 | フレイル予防のために必要な食事と栄養の確保の支援 | 32 | フレイル予防のために必要な栄養の確保の支援 |
| 21 | 水分の摂取の支援 | 33 | 清潔を保つ支援 |
| 22 | 口腔ケア及び摂食嚥下機能の支援 | 34 | 排泄状況を確認して排泄を続けられることを支援 |

関連項目の捉え方

「基本ケア項目34」の「相談すべき専門職」を参照し、医師、薬剤師、看護師、PT/OT/ST、介護職と協働して関連する項目のアセスメント・モニタリングを実践していただければと思います。

排泄は、人間の生命を維持する上で重要な機能であり、排泄の自立を保つことは、**本人の自尊心を高める**ことにもつながります。一方、家族等にとっても排泄の世話は、精神的、身体的に負担が大きい介護です。排泄上の障害を取り除くことで、排泄の自立を高める事が期待されます。

同時に、排泄は病気のバロメーターにもなるため、本人の日常的な排泄パターンからの**逸脱の程度を観察**することで、異常の早期発見に役立ちます。排泄をできるだけ自分で続けられるようにするため、**排泄リズムや排泄方法を把握し、本人がそのリズムを理解できるように支援**する体制を整えましょう。具体的には、トイレ等の排泄する環境を整えるとともに、食事や水分を摂ったり、薬を飲んだりするタイミングの調整や、日常生活の中での適度な運動・活動が確保されるよう支援体制を整えます。

なお、排泄補助用具の活用においては、本人の自尊心を傷つける場合があるほか、本人の不快感を助長する場合もあることにも留意しましょう。



以下の事例がありました。原因要素の抽出に参考になればと思います。

事例 1

一人暮らしの利用者で「便が出ない」と言われ、下剤を服用する場面があるが、それでも「出ない」。
アセスメントをしてみると、ほとんど食事を摂っていない。

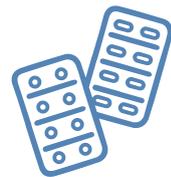


事例 2

有料老人ホーム入居中、便秘で下剤を服用。薬は、職員管理で医師の指示通りに決められた量、回数を服用。下痢状態になっても下剤を服用。その結果、おむつが必要になり、尊厳を傷つける。

事例 3

毎朝リハビリパンツから尿が漏れ、シーツを交換。
原因は、就寝前に2種類の利尿剤を服用していたこと。



(参考)
適切なケアマネジメント手法 基本ケア

今回は、「清潔の保持に関する状況」について、一緒に考えましょう。



執筆者

木村隆次 きむらりゅうじ

薬剤師

介護支援専門員指導者一期生

一般社団法人 日本介護支援専門員協会名誉会長

医療・介護連携協働をライフワークに活動中。大学卒業後、製薬会社のMRとして勤務した後、青森市内で薬局を開局。薬剤師として居宅訪問をしていた際、福祉用具と住宅改修に興味をもち没頭。介護支援専門員指導者の一期生。2000年4月から13年間日本薬剤師会常務理事、2010年から2022年まで青森県薬剤師会会長を務めた。2005年11月から日本介護支援専門員協会会長(初代)として厚生労働大臣の諮問機関で介護報酬や介護保険制度を議論する分科会・部会の委員を歴任。現在は、日本介護支援専門員協会名誉会長として自立支援型ケアマネジメントの普及のため後進へ情報発信し育成に努めている。

